

# 国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士論文研究構想発表会

2002年2月19日

現代東アジア表現科学講座 D1

勝川 裕子

1. 博士論文題目
2. 本研究の目的と方法
3. 論文構成案
4. 論文の説明
5. 主な参考文献

## 1. 博士論文題目

### 現代中国語における「領属関係」の諸相

## 2. 本研究の目的と方法

本研究が考察対象とする「領属関係」とは、あるものと、その側面、部分、持ち物、生産物などとの関係を指す関係概念であるが、このような「領属関係」は領属物を示す語とその領属先を示す語が文中で共に現れる場合、一定の統語的制約のもとで、様々な表現形式において様々な様相を呈している。修士論文では、現代中国語における「領属関係」を統語的根拠に基づき 4 つのタイプに下位分類した上で、「可 / 不可譲渡所有」(alienable / inalienable possession) の概念を援用し、領属性“被”構文( ex. 磨瓜式裕裕 恠阻熱淫) の分析を通じて、「領属関係」に連続性、階層性を見出した。修士論文で提示した「領属モデル」は、上位概念と先天的に不可分な「身体部位」を中心的カテゴリーとしており、「属性」、「装着類」、「一般領有物」の順に周縁のカテゴリーへと放射線的に分布するものであるが、このプロトタイプ効果は、中国語話者の「領属」に対する一般的な認知能力に依拠するものである以上、普遍性を有する概念体系であると仮定することができる。

本研究では、以上の仮説を論証すべく、“得”補語文、“把”構文、体詞性述語文、主述述語文、(広義の)存現文など、これまで別々に扱われてきた言語現象を「領属」の観点から取り上げ、統一的な分析を試みる。また、他言語(日本語、英語)との比較を

通じ、現代中国語における「領属関係」の特徴を抽出していく。

### 3. 論文構成案

#### 第 1 章： 序 章

#### 第 2 章： 現代中国語における「領属」の定義

- 2.1 「領属」と「属性」
- 2.2 「領属関係」の範疇
- 2.3 「領属関係」の下位分類

#### 第 3 章： 名詞連接表現と「領属関係」

- 3.1 構造助詞“的”の使用不使用
- 3.2 数量詞と「領属」
- 3.3 状態形容詞と「領属」
- 3.4 方位詞と「領属」

#### 第 4 章： 構文レベルで現れる「領属関係」

- 4.1 「領属」と所有、存在、発生、消失
- 4.2 各構文における統語的特異性
- 4.3 「領属」の下位タイプと構文の成立度

#### 第 5 章： 現代中国語の「領属モデル」 他言語との比較を通じて

- 5.1 可 / 不可譲渡性の観点から
- 5.2 「領属関係」の階層性
- 5.3 親族関係は不可譲渡ではないか

#### 第 6 章： 結 語

### 4. 論文の説明

第 1 章では、本研究の意義と目的、分析の方法などを述べる。

第 2 章では、本研究が考察対象とする「領属関係」を厳密に定義する。修士論文では、考察対象を狭義の領属関係（所謂「所有関係」）に限定して分析したが、本研究では、坎惺爽 1995 の定義に基づき、名詞性定語を「領属定語」と「属性定語」に大別し、広義の「領属関係」を設定する。また、統語的・意味的特徴を根拠にこれを下位分類し、分析を進めていく上での基盤とする。

【キーワード】 糟奉協囂 : 嗤岷 / 斤 議<sup>ミ</sup>協 / 購狼凋粉

第 3 章では、名詞連接表現と「領属」の関係について考察する。名詞性定語における「領属関係」については、しばしば構造助詞“的”の使用不使用が問題にされるが、現代中国語における“的”の使用は日本語の「の」の使用に比べ任意的であり、包括的な説明を試みるのは難しい。本章では、主に中心語（領属物）が「身体部位」や「親族関係」である場合、定語（領属先）はどのような形式をとるのか、またどのような条件下で“的”が使用される（されない）のかについて考察していく。また、数量詞や状態形容詞、方位詞との関連についても考察していく。

宸匯俳託音狍 { 匯褒匳伏議凜商。 (『中国語学習 Q&A101』 pp.87)  
匳伏議匯褒凜商。

厘心彭慢 碣橡橡議然，寔頁斑繁浪握！ (霧鍵伏《厘嚙仇務》)

輝慢委篤慕珊欺嫖析弗返貧扮，音鋤諒祇。(装伉冷《菱麼販》) c f ) \*嫖析弗返

第 4 章では、“得”補語文、“把”構文、体詞性述語文、主述述語文、(広義の)存現文など、これまで別々に扱われてきた言語現象を「領属」の観点から取り上げ、それぞれ統語的・意味的特徴を分析する。また、具体的にどのような「領属関係」が構文成立に關与しているかを考察し、「領属関係」に連続性・階層性を見出す。

磨鮭徨肯誼高高議。 c f ) \*磨墳徨飯誼垓垓議。(杉村 1976)

委道惚肇阻討隅。

菌菌海海議端，寄寄議凜商，互互議映徨，式式議恁。(《甥伉式傍柁獵僉鹿》)

析藍蟬阻匯峪凜商。 析藍棒阻幻牌。(脱落消失)

第 5 章では、修士論文で提示した「領属モデル」の妥当性について検証する。Haiman1985 は、可・不可譲渡性の観点から「領属関係」を考えると、body parts > kinsmen > some other possessa の順に不可譲渡性が高く、これはあらゆる言語に適應できる普遍的なものであり、この順序が入れ替わることはない指摘しているが、現代中国語における「親族関係」はこの理論には当てはまらない。これをどのように説明するか検討する。

可・不可譲渡性からみた「領属関係」

身体部位 > 属性 > 装着類 > 一般領有物  
親族関係？

【不可譲渡性】—————▶ 【可譲渡性】

第 6 章では、本研究の結語として現代中国語における「領属関係」を体系化するとともに、その特徴を他言語との比較を通じて明確にする。また、「領属」の観点から言語現象を捉えることの意義と今後の展望について述べる。

## 5. 主な参考文献

相原茂 1976. 「構造助詞 “ de ” の省略可能性」, 『漢文学会会報』 No.35, 東京教育大学漢文学会。

尾上圭介・木村英樹・西村義樹 1998. 「二重主語とその周辺 日中英対照」, 『月刊言語』。

木村英樹 1990. 「中国語の指示詞 「コレ/ソレ/アレ」に対応するもの」, 『日本語学』 3月号 vol.9, 明治書院。

杉村博文 1976. 「〈磨仁獬廷誼載母〉について」, 『中国語学』 223号。

1990. 「中国語と日本語の名詞連接表現比較」, 『大阪外国語大学論文集』 第4号。

1999. 「“ 厘鍛鍛 ” と “ 互徨久和 ”」, 『中国語』 5月号, 内山書店。

中川正之 1976. 「日中両国語における譲渡不可能名詞について」, 『中国語学』 223号。

川匠協 1963. 揮 “ 誼 ” 忖議温囂鞘 , 《川匠協徭僉鹿》, 采摛縮圍竈井芙。

遜央研 1988. 協囂議翌決來、坪梱來才各僚來式風乏會 , 《嶄忽囂獬還慕 囂隈寫梢才冥沫》 膨, 臼獎寄僥竈井芙。

装垵鯖吉 2001. 《糞喘 旗查囂囂隈》, 斌曆咫慕鋼。

个淺膿・嫖冉囑 1990. “ N1+V 誼 + N2 + VP ” 鞘堀灘呐蚩裂 , 《囂互縮僥囂寫梢》 及 3豚。

坎惺爽 1995. 僚簡咨根式風鞘隈朔惚 , 《嶄忽囂獬》 及 4豚。

嫖 樗 1998. 《範岑囂互僥囂查囂兆簡玉囂》 嶄忽芙氏親僥竈井芙。

幘蟻烈 1982. 《囂隈讐呐》 斌曆咫慕鋼。

Haiman, Jhon 1985. *Natural Syntax : Iconicity and erosion* , Cambridge : Cambridge University

【 業 績 】

「“被”構文における「領属関係」とその連続的位置付け」 名古屋大学言語文化研究  
誌

『ことばの科学』 第 13 号 2000 年 12 月

「“厘議第第”と“厘第第”の分析」 名古屋大学大学院国際言語文化研究科研究誌

『多元文化』 創刊号 2001 年 3 月

「“得”補語文に受事“N2”が表れる表現 補語とその叙述対象」

名古屋大学言語文化研究誌 『ことばの科学』 第 14 号 2001 年 12 月

「“N<sub>1</sub>+V 得+N<sub>2</sub>+VP”構文における「領属関係」 N<sub>1</sub>とN<sub>2</sub>の意味関係を中心に」

名古屋大学大学院国際言語文化研究科研究誌 『多元文化』 第 2 号 2002

年 3 月 (発行予定)